

JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1988

4・5

'89デザイナーについて

昭和62年7月、「デザイナー企画準備委員会」が、(財)日本産業デザイン振興会内に設けられ、デザイン団体をはじめ、関連団体など14団体が基本構想について検討して来た。全体会議4回を含む17回の討議を経て、去る3月24日、「'89デザイナー基本構想計画案」がまとまった。

これによると、本年度は準備年で、第1回デザインフォーラム(デザイナーの推進母体)での宣言、また以下のような、デザイナー運動の骨格づくりが進められることとなる。

- ① 国民生活の質的向上を図る活動
- ② 地域の活性化を図る活動
- ③ 産業の高度化を図る活動
- ④ 国際社会に貢献する活動

これについては、行政も全面的に支援する姿勢を示し、3月31日付で、通産省決定として関係筋に以下のように通知しているので、ここに転載することとした。

「'89デザイナーについて」

昭和63年3月31日

通商産業省決定

本日、輸出検査及びデザイン奨励審議会から、その創造環境が変容する中で大きく変貌を遂げつつある今日の「デザイン」活動について、その振興のための課題を抽出し、これを踏まえて、「1990年代に向けたデザイン政策の展開」を提言する答申が通商産業大臣に対して行われた。

通商産業省としても、いま、快適で潤いのある国民生活を実現する上で、また、産業活動の高度化を図る上で、

目次

● '89デザイナーについて	1
● 62・第5回理事会議事録	2
● 62・第6回理事会議事録	5
● 62・臨時理事会議事録	8
● JIDポートフォリオ(仮称)出版に 関するアンケート中間報告	11
● 第4回国際デザイン・コンペ募集要領	11
● 「ニューオフィス化の指針」発表される	12
● 昭和63年度 文芸美術国保案内	12
● ハンディキャップ者のインテリア	13
● 新名誉会員松岡宇六氏の紹介	15
● 「設立会員岡村實氏逝く」	16
● 松本政雄氏を偲んで	17
● 藤井泰一氏逝く	17
● 会員の消息	18
● 新入会員の紹介	19
● 関連団体の動き	27
● 事務局短信	27

更には、世界に誇りうる我が国固有の文化の発展を図る上でデザインの視点は不可欠となっていると考える。

本答申においては、デザイン振興の課題を克服し、更に、1990年代のデザイン政策を実現するための出発点として、「'89デザインイヤー」運動が提唱されているが、こうした運動は、このような認識を我が国に広く、深く定着させる上で、極めて適切かつ時宜を得たものということができる。

既に一年有余にわたり、(財)日本産業デザイン振興会をはじめとする関係者の努力によりこの運動の準備が進められてきたところであるが、通商産業省としては、広く全国のデザイン関係者がそれぞれの立場から1990年代のデザインを考える機会として「昭和64年度」を「デザインイヤー」と位置づけ、これら関係者に対しこの運動への参加と協力を呼びかけるとともに。この運動を強力に支援していくものとする。

なお、「基本構想計画案」はA4版12ページのもので、本部の他、支部にもコピーがあります。お問い合わせ下さい。(事務局)

第20回(昭和63年度)通常総会へ ご出席を

63年度の通常総会は来る5月24日(火)東京で行われる。全会員には去る5月6日総会議案書と案内を事務局から発送いたしました。

以下、簡単に日時、場所、スケジュールを再録いたします。

① 日時 昭和63年5月24日(火)午後3時～5時

② 場所 建築家会館1階ホール

東京都渋谷区神宮前2-3-16 建築家会館

電話(03)403-3649

③ 1987 J I D 協会賞贈賞式と野口記念賞授与式及びパーティー 同日、同場所で午後6時～8時

○千駄谷駅より 徒歩 15分

○外苑前駅より 徒歩 8分

○自動車の場合は環4を利用し、パシコンビルの裏をループで上ると陸橋上に出ます。

なお駐車設備は10台以下ですので御注意下さい。

62・第5回理事会議事録

1 日時 62.12.18(金) 13:30～17:10

2 場所 J A A 3階会議室

東京都渋谷区神宮前2-3-16

建築家会館

3 出席者 (別掲の通り)

4 議題

I 議案

第1号議案 事業の推進について

第2号議案 協賛・後援名義承認の件

第3号議案 入退会承認の件

第4号議案 基本問題懇談会の検討事項のまとめについて

第5号議案 研究委員会委員長人事承認の件

第6号議案 議事録署名人選任の件

5 はじめに議事につき、議長として渡辺理事長より説明あり、報告事項より審議に入る。これに先立ち、山品事務局長より「理事総数15名中、理事15名(本人出席13名、委任状2名)で本理事会は成立した」旨、定数報告がなされた。

第1号議案 事業の推進について

議長は前理事会(62.10.30 大阪開催)以降の、事業の進捗状況の概要について事務局長に報告するように求めた。また、補足すべき点について、各担当別に理事の発言を求めた。(以下カッコ内は発言理事名を示す)

㊦ 選考委員会(川上信二委員長)

例年、12月～1月にかけて行っている協会賞の推薦公募を準備中である。今回は「1987年協会賞」で、12月20日～1月20日に公募を行う。今回から特に、過去の受賞者に推薦公募の枠を拡げ、顕彰事業の拡充を計るように進めている。(川上)

㊦ 選挙管理委員会(工藤広忠委員長)

報告事項①にあるように、昭和63～64年度役員選挙を実施し、その結果を理事会に報告した。また、委員には「J I D NEWS 11・12月号」誌上で報告した。(代理発言、山品)

㊦ 総務委員会(秋山修治委員長)

12月9日に委員会を開催し、「規定集の再整備」について検討している。本年度中に概要をまとめ、

昭和63年度には会員配布に持って行きたい。(森谷)

㊦ 組織委員会(小坂希八郎委員長)

11月16日と12月16日の2回にわたり、委員会を開催し、「会員の拡大について」のテーマに検討を加えた。(森谷)

㊧ 交流委員会(山本棟子委員長)

恒例の、新春交礼会を本年より担当する。現在のところ、来春1月27日(水)、東京六本木の「HEART LAND つた館」で開催する案で煮つめている。案内は年明け早々の予定。

㊨ 国際委員会(後藤宣夫委員長)

1989年5月25日～27日、ノルウェイ ベルゲン市で予定されている「第14回国際インテリアデザイン会議(IFI総会)」についての第1報が届いた。テーマは「SPACE」である。また、創立30周年記念事業との関連項目については、別に述べる。

(大野)

㊩ 広報委員会(吉良ヒロノブ委員長)

機関誌「インテリアデザイン」(105号)の企画編集を進めている。特集は「世代考とデザイン論」で、来春1月25日発行の予定。(泉)

㊪ 出版委員会(三宅正郎出版委員長)

懸案となっている「JID ポートフォリオ」(仮称)のアンケート調査を実施する。年内回収、来春1月に集計し報告の予定である。(泉)

㊫ 教育委員会(田辺麗子委員長)

11月18日委員会を開催し、先に報告した「インテリアデザイン教育アンケート調査」について討議を行った。また、事業の完了を機に、委員同志の懇親会を開いた。(長岡)

㊬ 記念事業委員会(渡辺優委員長)

12月3日、前回(10月27日)に引き続き第2回目の委員会を開いた。30周年記念事業の企画について討議を行った。記念事業を行うにあたり、その運営組織、事業実施期間、テーマ等について検討を行い、その内容については、委員長がまとめを行っている。以上、資料に基づき中間経過の報告をした。

また、別に国際部会(大野理事)関係の資料についても討議した。(渡辺)

㊭ 共同事業委員会(三輪正弘委員長)

IFFT'87(東京国際家具見本市)で共催された

パネルディスカッションの企画に協力した。11月20日、東京晴海会場で、「生活の場としてのオフィス」——ゆとりと快適なオフィスインテリアと題し開催され、受講者は150名を超えた。

JAPAN TEX '88(第7回インテリアフェアブルックスショウ)で同時開催の、「第1回日本インテリアテキスタイル作家展」企画に参加している。

12月12日主催者事務局で、実行委員会が開催される。

(三輪)

㊮ 事業支部関係

●関東事業支部(吉永淳支部長)

12月18日、報告会「フィリピン事情について」(香川顕郎会員が講師)を開催する。引き続き、懇親会を行い、交流を深める。また、来春には自動車メーカーの工場見学を行う企画を検討中である。

●関西事業支部(栢原秀榮支部長)

年初1月11日に、恒例になっている大阪デザイン団体連合(15団体)の年賀交換会を幹事役で開催する。(樋口)

●九州事業支部(幸重篤典支部長)

昭和62年度支部総会で決定していた「アンケート調査」を実施した。結果を会員に配布したほか、「JID NEWS 11・12月号」誌上に収録し、他の支部会員にもその内容を開陳した。(中川)

●中部事業支部(林寅正支部長)

DESIGN EXPO '89(世界デザイン博覧会)および同時期併催の世界デザイン会議企画推進に支部の立場から協力している。情報等をすみやかに本部に流すようつとめたい。(宇賀)

以上、㊦～㊭の12項目について、渡辺議長が重ねて総括し、確認を行った。理事会はいずれもこれを承認した。

第2号議案 協賛・後援名義承認の件

議長は次の2件について事務局長に説明を求めた。事務局長は資料に基づき説明を行ない、また、前例にならって実施した項目について報告した。議長はこれを諮り、理事会は次の2件につき異議なく承認した。

○第11回大阪産業デザインコンテスト <協賛>
主催 大阪産業デザインコンテスト運営委員会

(応募受付 63.2.1～5, 大阪)

○第1回タイル展示会

<後援>

主催 ヨーロッパタイル工業会

(63.2.17～19, 東京)

第3号議案 入退会承認の件 (17件)

議長は次の17件につき、事務局長に内容説明を求めた。事務局長は各々の提出資料に基づき説明を行った。

・正会員の入会 (12件)

氏 名	種 別	保 証 推 薦 者
宮地 純一	正会員	三輪正弘・山品 元
樋浦康裕	"	西沢圭三・片柳和男
坂山正一	(準より)	山品 元・岸田 勝
山本ヒカル	(")	中村圭介・山品 元
青木昭夫	正会員	合田正甫・山品 元
恵比寿正躬	"	" " "
下川裕道	"	" " "
本間 純一	"	宇賀敏夫・大橋義博
岩崎真理子	"	岡部史子・吉良ヒロノブ
須田佐和子	"	" " "
林 夕起夫	"	矢吹 宏・三宅正郎
十文字洋一	"	吉良ヒロノブ・阪井良種

・準会員の入会 (4件)

氏 名	種 別	保 証 推 薦 者
丹治亜子	準会員	諸富幸成
小此木秋彦	"	佐々木 浩
西村佳子	"	"
佐々木孝子	"	"

・退 会 (1件)

氏 名	種 別	
藤井 豊	準会員	

理事会はこれを諮り、いずれも異議なく承認した。

会員数は合計で667名(社)となった。内訳は、名誉会員30名、正会員511名、準会員38名、賛助会員88社である。

第4号議案 基本問題懇話会の検討事項のまとめについて

62・第2回理事会(62.7.30 東京開催)で提案があり、第6号議案として決定、設置された理事長の私的諮問機関——基本問題懇話会では、9月1日、17日の

2回にわたり会合を開いた。そこでは、J I D の目的、組織、会員の責務をはじめ、協会の今日的な基本問題についての検討が進められたが、それを要約した資料が提示された。今後は理事会において内容を煮詰めた上、成文化するものは成文化し、協会事業の基本構築に資して行きたい。

以上、渡辺議長より報告あり。理事会はこれを承認した。

第5号議案 研究委員会委員長人事承認の件

かねてより委員長就任の人材を打診していた同委員会人事につき、長岡理事(担当、教育部会)より山田伊三郎正会員(関東支部)を推したい旨、発言がなされた。理事会はこれを諮り、異議なく承認した。

第6号議案 議事録署名人選任について

議長は議事録署名人に、樋口治・三輪正弘両理事の選任を提案し、承認を諮った。異議なく承認された。

(社)日本インテリアデザイナー協会62・第5回理事会に関し、定款第28条の定めるところにもとづき、議事経過の要領および議決事項を記すため議長と議事録署名人がここに記名捺印する。

議 長 渡辺 優 ㊤

議事録署名人 樋口 治 ㊤

議事録署名人 三輪 正弘 ㊤

62・第5回理事会出席者名

渡辺 優, 川上 信二, 大野美代子, 川崎 浩
宇賀 敏夫, 中川 千年, 三輪 正弘, 長岡 貞夫
森谷 延周, 山内 陸平, 樋口 治, 泉 修二
山口 元

理事総数 15名 中理事 15名 (本人 13名, 委任状 2名)

(敬称略・順不同)

6 報告事項

II 報告事項

① 選挙管理委員会報告(工藤広忠委員長)

昭和63～64年度役員選挙について

事務局長より同委員会報告として、開票結果が読み上げられた。

② 昭和63年度インテリアプランナー講習

受講申込状況: 約 5,300 名

インテリアコーディネーター受験状況も併せて

中間報告された。

③ 計報（2件）

- ・ 故 松本政雄 殿

名誉理事（11月24日永眠 享年84歳）

- ・ 故 横田幹郎 殿

賛助会員 (株)ダンインテリア 代表者

（11月19日急逝 享年48歳）

謹しんでご冥福をお祈りいたします。

④ 財政状況

年末を迎え、厳しい状況にある、と事務局長が報告。

⑤ DESIGN EXPO'89（名古屋デザイン博覧会）関係

広報資料により、宇賀理事より報告された。

⑥ デザイナー'89

1989年は1973年以来の、第2回デザイナーの年となる。渡辺理事長より、一般情報として報告された。

⑦ 「デザイン政策の概要」

通産省検査デザイン行政室では、11月にデザイン行政、振興事業等の内容を、表記の冊子（A4版、25ページ）にまとめた。

事務局より資料として提出された。

⑧ 消息

- ・ 豊口克平 様（名誉理事）

11月16日「型而工房から」出版記念会

（於東京如水会館）盛会（参加 361名）

- ・ 栢原秀榮 様 入院中（関西支部長）

11/初～12/末 退院見込

近畿大学附属病院（大阪府狹山市）

- ・ 中村圭介 様（理事）

12/14～ 自宅療養中

理事会は①～⑧をいずれも了承した。

次回、62・第6回理事会は2月12日（金）東京開催の予定。

（以上）

東京都渋谷区神宮前2-3-16 建築家会館

3 出席者（別掲の通り）

4 議題

I 議案

第1号議案 昭和63年度総会準備について

第2号議案 名誉会員の推挙について

第3号議案 借入金承認の件

第4号議案 会費免除対象者承認の件

第5号議案 資格変更非手続者（資格消滅）について

第6号議案 協賛・共催名義承認の件

第7号議案 入退会承認の件

第8号議案 寄附金の件

第9号議案 雑件 ① 出版委員会の実施アンケートについて

② 事務の効率化について

第10号議案 議事録署名人選任の件

5 はじめに議事につき、議長として渡辺理事長より説明あり、報告事項より審議に入る。これに先立ち、山品事務局長より「理事総数15名中、理事15名（本人出席12名、委任状3名）で本理事会は成立した」旨、定数報告がなされた。

第1号議案 昭和63年度総会準備について

議長は先の合同運営会議（63.2.1 東京開催）に、事務局より提出された昭和62年度事業報告（案）をもとに、内容について慎重に審議を加えた。結果、一部修正若しくは加筆を行ない、議長は理事会に諮った。理事会はこれを承認した。

また、62.12.31 現在の間決算報告書についても原案を承認した。

引き続き、昭和63年度事業計画（案）が上程された。これについては、30周年記念事業との関連から、4月4日予定の次回理事会に向けて、事前に在京理事を中心にワーキング・グループの形で内容の検討を行ないたい旨、渡辺議長より提議された。理事会はこれを了承し、グループで煮つめたものを改めて上程することとした。

第2号議案 名誉会員の推挙について

定款第5条3項および会員規定第2条4項、第6条3項により、次の3会員の資料が上程された。審議の結果、議長これを諮り、理事会は満場一致で推挙を決

62・第6回理事会議事録

1 日時 63.2.12（金） 13:30～17:30

2 場所 JAA 3階会議室

定した。

広田長治郎	関東支部
香川 顕郎	・
松岡 宇六	九州支部

(順不動・敬称略)

第3号議案 借入金承認の件

財政上、太陽神戸銀行青山支店より200万円の借入をしたい旨、審議に先立ち事務局長より発言があった。借入が実現した場合印刷費、支部事業費、管理費の一部の支払いに充当する。

借入時期は2/15、返済計画は3月末～7月末とし5ヶ月均等返済。6ヶ月目の8月末の最終回返済にて残額精算の予定。借入に当たっての手続は昭和61年度の前例通りとなろう。以上理事会はこれを承認した。

第4号議案 会費免除対象者承認の件

議長は次の3件について事務局長に上程主旨の説明を求めた。事務局長は会員規定第8条第1項2に該当するものとして内容説明を行った。理事会はこれを諮り、異議なく承認した。

岡村 実 (正会員) 関西支部、病氣

栢原 秀榮 (・) ・, ・

栢植 一毅 (・) ・, ・

第5号議案 資格変更非手続者(資格消滅)について

かねてより、会員規定第6条4項及び5項に基づいて、準会員より正会員への資格変更に関し所定の手続を行わなかった、下記会員5名の準会員資格の消滅を審議した。いずれも異議なく承認した。

氏 名	会員番号	所 属
及川 洋功	B- 20	関東支部
清野 正朗	B- 81	・
田中 伸司	B- 93	・
松下 澄雄	B- 132	・
加藤 博之	B- 137	中部支部

なお、上記該当者は昭和63年度通常総会で決議された場合、定款第11条1項3に照して除名されることとなる。

第6号議案 協賛・共催名義承認の件

議長は下記2件について事務局長に説明を求めた。

事務局長は資料に基づき説明を行い、同時に実施につ

いて報告した。議長は本件について承認を諮った。いずれも異議なく承認した。

○第16回『'88国際ホテルレストランショー』<協賛>

第16回『'88ホテル・旅館・レストランシンポジウム』

主催 (社)日本能率協会

(展示会 63. 3. 8～12
シンポジウム 63. 3. 9～10 ・東京)

○昭和62年度 デザイン研修会 <共催>

主催 (財)生活用品振興センター名古屋支部

(63. 3. 2～4
63. 3. 8～10 のどちらか・名古屋)

第7号議案 入退会承認の件

議長は下記12件について事務局長に内容の概括説明を求めた。事務局長は資料に基づき説明した。理事者はそれぞれ資料の審議を行った。

・入会 (10件)

氏 名	種 別	保 証 推 薦 者
酒井隆嗣	正会員	山岸 証史・村山勝彦
越川久子	・	三輪正弘・渡辺 優
遠山 崇	・	田島憲悟・伊藤公一
永田義彰	・	溝口 新・坂本康四
柴田龍介	・	・ ・ ・
須藤玲子	・	飯田公久・窪田 緑
大越孝子	・	山本棟子・長岡貞夫
青木 猛	・	今崎 務・藤川征輝
青山一男	準会員	佐々木 浩

名 称	種 別	紹 介 者
カルテル・ジャパン(株)	賛助会員	山品 元

・退会 (2件)

名 称	種 別	
澤野周二	正会員	
松岡和吉	準会員	

理事会はこれを諮り、いずれも異議なく承認した。

会員数は合計で672名(社)となった。内訳は、名誉会員30名、正会員517名、準会員36名、賛助会員89社である。

第8号議案 寄附金の件

先の、62・第3回理事会（62.9.25東京開催）で報告された故竹内篤氏の遺作集『竹内篤の軌跡』のご寄贈による頒布料が118,000円に達した。以上事務局長より報告され、また、当該金額を寄附金として改めて協会にご寄附いただくことを動議として提案した。理事会はご遺族の意を挺し、満場一致で承認した。

尚、残部数については関係筋へ寄贈することとなった。

第9号議案 雑件

① 出版委員会の実施アンケートについて

前理事会で了承されたポートフォリオについてのアンケート実施（62年12月）の結果が資料で提出され、議長により内容説明が加えられた。集計結果のうち、回収率が低いこと、実施時期が年末であったこと、回収期間が短かったこと等、出席理事より意見が述べられた。議長は更にこの結果を踏まえ、ポートフォリオ実施の取扱いについて語った。結果、継続審議案件とするものの、会員ニーズの把握、採算面現在の判断から一時保留とするのもやむを得ない、という結論に達した。当面実施は見送ることとなる。

② 事務の効率化について

事務局長より、63年1月実施の「事務アンケート」について概況が報告された。回収は過半数となったものの、原則的には会員全ての意見を聴聞したいので、回収は今後も続行する。また、設問に対する回答は概ね事務の効率化に理解を得られている、と中間集計資料が示された。理事会は会員数の急速な増大の現状にかんがみ、事務の効率化の諸施策を積極的にとり入れることを了承した。最終アンケート結果はJID NEWS等で報告するものとする。

第10号議案 議事録署名人選任について

議長は議事録署名人に森谷延周・山品 元 両理事の選任を提案し、承認を語った。異議なく承認された。

（社）日本インテリアデザイナー協会62・第6回理事会に関し、定款第28条の定めるところにもとづき、議事経過の要領および議決事項を記するため議長と議事録署名人がここに記名捺印する。

議長 渡辺 優 ㊦

議事録署名人 森谷 延周 ㊦

議事録署名人 山品 元 ㊦

62・第6回理事会出席者名

渡辺 優，川上信二，泉 修二，川崎 浩
宇賀敏夫，中川千年，樋口 治，長岡貞夫
森谷延岡，山内陸平，山品 元，中村圭介

理事総数 15名中理事 15名

（本人 12名，委任状 3名）

監事 榎田 均

（敬称略・順不同）

6 II 報告事項

① 次期役員予定者（当選者）変更

松本哲夫氏辞退，大野美代子氏繰上げ当選

② 第15回（昭和62年度）国井喜太郎産業工芸賞決定

- ・羽生道雄氏（モノプロ工芸）
- ・中村富榮氏（漆工芸家）
- ・秋田木工株式会社殿（家具企業）

③ 人事

イ 第21回東南アジアデザイン交流ミッション

（通産省）

63.3.21～27 シンガポール・フィリピン訪問

J I D	後藤国際委員長
検デ室	梶野事務官
J I D P O	関谷 理事

ロ 世界デザイン会議'89名古屋 運営会

（64.10.18～21，名古屋市）

副会長	渡辺 優
理 事	川上信二

④ 出版物頒布状況

事務局経由，63年1月31日現在
数字は部数

- ・「世界のインテリア」 12
- ・「インテリアマップ Tokyo AREA 最新版」 230
- ・「竹内篤の軌跡」 38
- ・「型而工房から」 25

⑤ 訃報

故 藤井 泰一 様（九州） 62.12.24 逝去

享年 68歳

⑥ 会員の消息

- ・岡村 実氏（関西） 62.12.1 入院
- ・柘植一毅氏（関西） 62.12.初 入院

- ・岩瀬要三氏（関東） 近況
- ・石渡正男氏（賛助） 藍綬褒章受章（62.秋）

⑦ 1987 協会賞推薦状況

13 件 （63. 2. 10 現在）

⑧ '89 デザインイヤー情報

（デザインイヤー企画準備委員会より）

⑨ 1988 新春交礼会報告

（出席者 139 名，63. 1. 27（水） 於東京）

⑩ 備品購入

書庫×2，ロッカー×1，上置×1

（63. 2. 1 付）

理事会は①～⑩をいずれも了承した。

次回は通常総会に向けての臨時理事会とし，4 月 4 日（月）東京開催の予定。

（以上）

●62・臨時理事会議事録

1 日 時 63. 4. 4（月） 13:30～17:00

2 場 所 JAA 3 階会議室

東京都渋谷区神宮前 2-3-16 建築家会館

3 出席者 （別掲の通り）

4 議 題

I 議 案

第 1 号議案 昭和63年度事業計画(案)及び予算
(案)承認の件

第 2 号議案 昭和62年度収支中間決算承認の件

第 3 号議案 昭和61年度野口記念事業特別会計
収支決算承認の件

第 4 号議案 監事 1 名の異動について

第 5 号議案 事務の一部簡略化について

第 6 号議案 会員拡大計画について

第 7 号議案 規定集その他の整備について

第 8 号議案 受託事業承認について
(第15回 インダストリアル デザ
イン JICA 研修事業)

第 9 号議案 協賛名義承認の件

第10号議案 入退会承認の件

第11号議案 会費免除対象者承認の件

第12号議案 議事録署名人選任の件

5 はじめに議事につき，議長として渡辺理事長より説明あり，報告事項より審議に入る。これに先立ち，山品事務局長より「理事総数15名中，理事15名（本人出席13名，委任状2名）で本理事会は成立した」旨，定数報告がなされた。

第 1 号議案 昭和63年度事業計画(案)及び予算(案)承認 の件

議長は2回（63. 2. 26 及び 3. 10 東京）にわたり，正副理事長，在京理事をもって開催された検討会議での資料を事務局より提出させた。事業計画(案)については，逐条的に事務局長が内容を読み上げ部会長であるそれぞれの理事が補足を行った。結果，一部の新委員長人事など未定の部分を除き，ほぼ原案通り承認となった。4 事業支部の計画(案)についても同様，決定した。

次いで，収支予算(案)について議長は事務局長に説明を求めた。事務局長は昭和62年度予算，及び中間決算等の資料と対比しつつ，予算書原案の内容説明を行った。特に昭和63年度は創立30周年記念事業関係，受託事業関係等の特記すべき科目もあり，その点に討議が集中された。結果，原案通り承認となる。

第 2 号議案 昭和62年度収支中間決算承認の件

議長は事務局長に内容の説明を求めた。事務局長は63. 2. 29 現在の中間決算計算書をもって昭和62年度下期の決算説明を行った。質疑の後，議長これを諮り，理事会は承認した。

第 3 号議案 昭和61年度野口記念事業特別会計収支決算 承認の件

議長は事務局長に内容の説明を求めた後，理事会に諮った。理事会はこれを承認した。

第 4 号議案 監事 1 名の異動について

報告事項⑥にあるように，監事岡村実殿が63. 3. 4 に逝去され，監事 1 名が欠員となった旨，事務局長より説明が行われた。本件は定款第15条第3項に基づき，来たる5月の第20回通常総会までの残余期間の欠員につき審議するものである。慎重審議の結果，監事 1 名のままとし，欠員補充を行わないことを決定した。

第 5 号議案 事務の一部簡略化について

前回の理事会（63. 2. 12 東京）第9号議案⑩で了承済の，事務簡略化の内容が，事務局長より提示された。第1段階として，年会費の銀行振込等，振込者の手元

に(控)が残る送金対象のものは、改めて協会よりの「領収証」発行を省略したい。また、慣例として年1回発行されてきた「小型会員証」についても、大型会員証が制定された関連から省略したい。但し、上記2種とも、当該会員から要請が寄せられた場合、その都度遅滞なく発行するものとしたい。以上事務局長より主旨と内容が説明された。議長これを諮り、理事会は了承した。

第6号議案 会員拡大計画について

議長は提案主旨の説明を森谷理事(総務部会長)に求めた。同理事は組織委員会での検討原案を資料に基づいて行った。議長は次年度の重点事業の一つであるとして、在京理事を指名し、内容検討を行った上で更に今後の理事会等で煮つめたい旨諮った。理事会はこれを了承した。

第7号議案 規定集の整備について

議長は提案主旨の説明を、同様に森谷理事に求めた。同理事は総務委員会での検討内容を資料に基づいて簡明に行った。定款との関連、総会承認案件でもあり、協会事業の根幹に関わる内容を含んでいるとして、十分な時間をかけ、昭和63年度中にまとめて行くことはどうか、との意見等が発言された。

議長は本件についての審議を第6号議案と同様の取扱いをして行くことを諮った。理事会はこれを了承した。

第8号議案 第15回インダストリアルデザイン研修受託事業(JICA)について

JIDA, JPDAと持回りで協力して来た同事業は、昭和63年度がJIDの担当年となる。現在、JIDPO経由でJICAより協力について打診があった。内容等についてJIPDOと煮つめることとなろう。特に事務的業務委託については、一般経常事業、記念事業との関連もあり、現状を十分に把握した上で対応することが肝要である。以上事務局長より発言があった。

議長はJIDA, JPDAの意見も聞いて煮つめることを諮り、理事会はその方向でよいとして事業受託そのものについては了承した。

第9号議案 協賛名義承認の件

議長は下記1件について事務局長に説明を求めた。事務局長は資料に基づき説明を行ない、実施について報告した。議長は本件について承認を諮った。理事会

は異議なく承認した。

○'88 JAPAN SHOP 記念 国際シンポジウム
主催 (財) 店舗システム協会
(63.3.22~23, 東京)

第10号議案 入退会承認の件

議長は下記11件について事務局長に内容の概括説明を求めた。事務局長は資料に基づき説明した。理事者はそれぞれ資料の審議を行った。

・入会(8件)

氏 名	種 別	保 証 推 薦 者
今井 壽 志	正会員	矢 吹 宏・三宅正 郎
八十 常 充	"	山内陸平・栢原秀 榮
舟 橋 千 枝	"	長岡貞夫・山本棟 子
荻野 宣 子	"	" ・ 後藤宣 夫
岩本 勝 之	"	杉本真二郎・中島 研 一
芦田 和 男	"	中村圭介・山下博 之
森本 勉	"	渡辺 優・長岡貞 夫
四方 功 一	"	安永一典・浅田弘 之

・退会(3件)

名 称	種 別	
木 崎 卓	正 会 員	
(株)ヤシマ製作所	賛助会員	
(株)ダンインテリア	"	

理事会はこれを諮り、いずれも異議なく承認した。

会員数は合計で676名(社)となった。内容は、名誉会員30名、正会員523名、準会員36名、賛助会員87社である。

第11号議案 会費免除対象者承認の件

議長は次の2件について事務局長に上程主旨の説明を求めた。事務局長は会員規定第8条1項の1に該当するものとして内容説明を行った。理事会はこれを諮り、異議なく承認した。

藤井 優 子 (正会員) 関西支部 海外(米国)
山内 陸 平 (") " (")

第12号議案 議事録署名人選任について

議長は議事録署名人に長岡貞夫・樋口治両理事の選任を提案し、承認を諮った。異議なく承認された。

(社)日本インテリアデザイナー協会 62・臨時理事会に関し、定款第28条の定めるところにもとづき、議

事経過の要領および議決事項を記するため議長と議事録署名人がここに記名捺印する。

議長 渡辺 優 ㊦

議事録署名人 長岡 貞夫 ㊦

議事録署名人 樋口 治 ㊦

62・臨時理事会出席者名

渡辺 優, 川上信二, 中村圭介, 川崎 浩
宇賀敏夫, 中川千年, 樋口 治, 長岡貞夫
森谷延周, 大野美代子, 山品 元, 三輪正弘
泉 修二

理事総数15名中理事15名(本人13名, 委任状2名)

監事 榎田 均

(敬称略・順不同)

6 II 報告事項

① 選考委員会報告

(63.3.14 付で決定)

●1987協会賞(第19回)は2件, 3氏に贈賞

(推薦数: 13件)

作品: 近藤康夫 殿

作品と業績: 藤塚光政 殿

白鳥美雄 殿

●野口記念賞(第6回)

応募数 8校 38点

一次審査通過 5校 10点

(二次審査 63.4.8 予定)

② '89デザインイヤー基本構想計画案

デザインイヤー企画準備委員会
JIDPO 他 14団体
第4回 63.3.24 開催

③ 世界デザイン博覧会デザインギャラリー5団体連絡会(第1回 63.4.8 開催予定)

④ 関連団体の動き

日本ジュウリーデザイナー協会(金子俊二理事
長, 本部—東京, 会員数252名)

63.3.30 付で 社団法人化する。

⑤ 昭和62年度インテリアプランナー試験の結果について

昭和62年度(第1回)の試験結果が去る3月25日,
主催者である(財)建築技術教育普及センターより発表
になった。内容は事務局より資料提示が行われた。

⑥ 訃報

故 岡村 実 殿(前監事 63.3.4 逝去, 享年69歳)
協会より弔意を表した。ご冥福をお祈りいたします。

⑦ 「西武セゾングループ アイ・エフ・アイ」の件

先に新聞広告等で散見された上記の件では事務局
長名で先方に文書を郵送した。また, 4月1日に川
上副理事長, 後藤国際委員長が先方と接触をもち,
名称使用についてIFI(本部 アムステルダム市)
の了承を直接をとりつけること, また, ログタイプにつ
き現行のものを守ることの2点を申し入れ, 西武もこ
れを了承した。以上, 川上副理事長より報告された。

⑧ 第20回通常総会等のスケジュール(予定)

○月日 5月24日(火)

① 午後 63・第1回理事会

② 午後 通常総会

③ 夕刻 協会賞等贈賞式・パーティ

○場所 ① — 建築家会館3階会議室

②, ③ — 1階ホール

理事会は①~③をいずれも了承した。

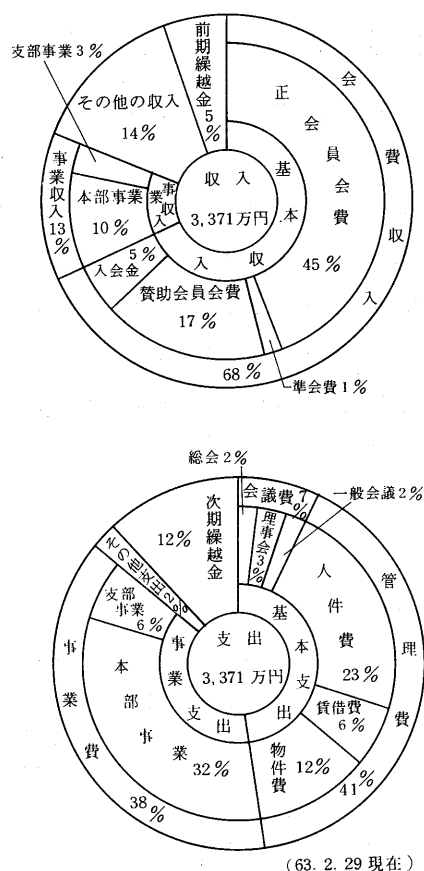
今回は通常総会当日とし, 5月24日(火)東京開催の
予定。

(以上)

なお, 本理事会を以って, 昭和62年度の最終の役
員会となる。理事会終了後, 次年度へ向けて忌憚の
ない意見交換が行われた。

昭和62年度中間決算の費目構成比率

事務局では、例年、期末の最終理事会に向けて中間決算（63年2月末日現在）を行い、報告します。以下は予算実行3,371万円の収入と支出の割合を円グラフで表したものです。数表よりも馴染みやすいと思いますので、若干時間は経過しましたが本号に掲載させていただきます。（事務局）



J I Dポートフォリオ（仮称） 出版に関するアンケート中間報告

出版委員会（三宅正郎委員長）では、昭和62年度事業の一環として、今春、アンケートを実施、以下のようなその回答内容の概要を、62・第6回理事会に報告した。中間報告ですが、本号に掲載しご報告いたします。尚、内容詳細ご希望の向きは事務局まで、コピーをご請求下さい。

①アンケート実施時期 62.12月～63.1月

②主旨

当協会出版委員会は第1回出版物として、理事会及び一般会員から要望のあった個人或は企業の作品、業績、著書論文発表歴等を紹介する出版物を＜J I Dポートフォリオ（仮称）＞として計画するにあたって、事前アンケートを行ったもの。出版企画に先立ち、当協会会員が自営及び企業デザイナー、教職者、管理者などの構成によるための種々困難性もあり、具体化にあたり、あらためて会員各位の意向、希望などをアンケートにより確認し、会員の方々によるこばれる出版物をつくる資料とするためのもの。

③対象

名誉会員・正会員・賛助会員

④発送数

関東 392、関西 137、九州 30、中部 56

⑤回答数（カッコ内回答率）

関東 73（18.6%）、関西 38（27.7%）、
九州 2（7%）、中部 9（16%）

⑥出版に賛成（カッコ内発送数に対する割合）

関東 50（12.7%）、関西 23（16.7%）、
九州 2（7%）、中部 7（12%）

⑦出版に不賛成（カッコ内発送数に対する割合）

関東 23（5.8%）、関西 14（10.2%）、九州 0（-）
中部 2（3.5%）

（文責：事務局）

第4回 国際デザイン・コンペ 募集要領

国際デザイン交流協会では、第4回国際デザイン・コンペティションの募集内容を決定した。

テーマ：「火」（第1回「集」、第2回「交」、第3回「水」のテーマで行なわれた。）

審査：国内審査員5名で予備審査を行なった後、本審査は国内2名、海外3名で行なわれる。

賞：総額 80,000 US \$
大賞は1点（50,000 US \$）

日程：1988年6月登録申請受付開始
（登録〆切 10月31日）

本審査の結果通知は1989年8月の予定。

詳細は下記へ問合せのこと。

財団法人国際デザイン交流会

大阪市北区梅田 1 丁目 3-1-800

大阪駅前第 1 ビル 8 階 〒530

電話 06-346-2611 (代)

このコンペティションをふくむ大阪で隔年に開催する国際デザイン・フェスティバルには、当協会も積極的に協力しています。

ンはこれから一層重要になる領域だと思います。この委員会には理事長が委員として参加してきましたが、業界団体であるニューオフィス推進協議会とは、協会としても協力関係を進めつつあります。

ニューオフィス推進協議会 事務局

〒105 東京都港区新橋 3-4-8

新橋ボンフリーマンビル 3 階

電話 03(581) 4651 番

「ニューオフィス化の指針」 発表される

61年度に通産省が設けたニューオフィス推進委員会は61年12月に「ニューオフィス化推進についての提言」をまとめ公表しましたが、さらにその提言をもとにニューオフィス・ミニマムについての検討を重ねてきました。その結果としてこの度「ニューオフィス化の指針」が発表されるに至りました。

インテリア・デザイナーにとって、オフィスのデザイ

昭和63年度文芸美術国保案内

会員の中でも、文芸美術国保の有利さから、毎年加入する方々が増えてきています。

費でもおわかりのように、本年も保険料の改訂がありません。会員 1 人月額 7,800 円、家族 1 人月額 3,800 円です。一般国保より有利だと思います。特に家族数の少ない方はご検討下さり、加入されることをおすすめします。なお、被保険者証の更新は昭和63年 4 月 1 日で、様式色調は前年度と同じです。

東京都23区保険料と組合保険料の比較表

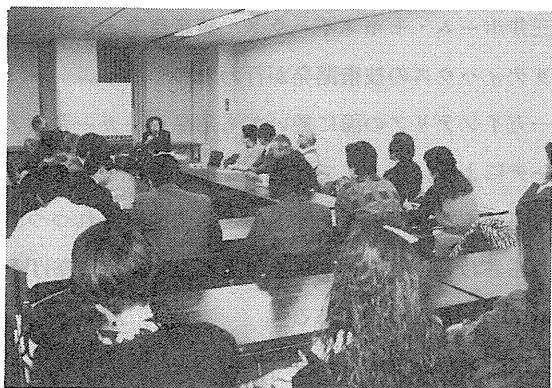
(63. 4)

63年度の住民税 (特別区民税・都民税)	東京都23区保険料年額 $\left(\text{住民税} \times \frac{107}{100} + 1 \text{人につき} 12,000 \text{円} \right)$ 最高限度額 39 万円						組合保険料 組合員 (月額) 7,800 円 家族 (月額) 1 人 3,800 円 年 額
	10 万円	15 万円	20 万円	25 万円	30 万円	35 万円	
単 身 者	119,000 円	172,500 円	226,000 円	279,500 円	333,000 円	386,500 円	93,600 円
家 族 1 名 (世帯人数 2 名)	131,000	184,500	238,000	291,500	345,000	390,000	139,200
家 族 2 名 (世帯人数 3 名)	143,000	196,500	250,000	303,500	357,000	390,000	184,800
家 族 3 名 (世帯人数 4 名)	155,000	208,500	262,000	315,500	369,000	390,000	230,400
家 族 4 名 (世帯人数 5 名)	177,000	220,500	274,000	327,500	370,000	390,000	276,000

(注) 太線内に該当する方は、文芸美術国保組合の方が収入に拘わらず一率料金のため、トクであることになります。

ハンディキャップ者のインテリア

関東事業支部では、今春2月26日、岩井一幸氏（製品科学研究所システム設計課長）を講師に、JIDサロンを開いた。以下、同氏のご講演要旨です。ご報告いたします。



住宅部品メーカーのシルバープロジェクトチーム等、現在でこそ高齢者・身障者を対象とした住居及びインテリアがクローズアップされているが、日本に於いて高齢者・身障者の住環境の問題を扱うプロジェクトが通産省内に初めて設けられたのはハウス55計画（昭和55年～60年）であった。これは当初、障害者の住宅を作る、という目的で始められたものであった。が、高齢化現象が社会問題としてクローズアップされた背景や目的別（車椅子使用者用、視覚障害者用）に細分化された住宅の設計には無駄が非常に多い——といったことから、高齢者を含めた“ハンディキャップ者”の住宅という問題として取り組まれることとなった。このハンディキャップ者にとっての安全な住宅——というコンセプトは、実際は、車椅子がどのように住宅や公共建物にアクセスするか、という段階から始まるが、これは単にどのようにアプローチするか、といった問題を越え、最終的にユーサビリティの追求にまで至るべき問題である。つまり、高齢者や障害者に単に、安全な住宅を提供するだけでなく、彼らが全く不自由を感じないで住める住宅——インテグレーション又はノーマライゼーション化——が必要という訳である。

では、次にハンディキャップ者の中でも特に日本に於いてこれから益々問題化するであろう“高齢化”の問題点（特徴）とそれに伴う住居の問題点を列挙してみよう。

- ① 高齢化社会（65歳以上の人が全人口の7%を占める社会をこう呼ぶ）から高齢社会（65歳以上の人が全人口の14%を占める社会）へ移行する速度が非常に早い。1996年には高齢社会へ突入すると考えられる。
 - ② 絶対人口、それに伴う高齢者人口の多さ。スウェーデンも高齢化が早いといわれる国であるが、現在65歳以上の人口約241万、西暦2020年頃には2795万人に達するとされる日本が総人口800万の国を目標にすることはできない。
 - ③ 平均寿命が長い。これは人生を50～60年として考えていた従来の住宅・インテリア観から質のよい住宅、インテリアへの脱却・展開が必要ということである。
 - ④ 女性の寿命が男性より長く、人口も4：6の割合が多い。これも又これからの住宅、インテリアを考える上で考慮に入れるべきことである。
 - ⑤ 高齢者比率の増加。現在、生産年齢人口（15～64歳）が7人に対して高齢者（65歳以上）1人を支えているが、高齢社会がピークを迎える2020年頃には、3人弱で高齢者を支えなければならず、こうなると当然技術的ケアを有した住宅・住環境へのニーズが高まる。
 - ⑥ 夫婦・単身者のみの世帯の割合の増加。
 - ⑦ 高齢化現象の地域格差。
- 以上が主たる問題点だが、では実際、高齢者の住宅を考える際、配慮すべきことは何だろうか。以下4点にポイントを絞ってみた。
- ① 社会的孤立化を防ぐ。例えば他人との交流が阻害されてしまうような住まい（方）は、ご法度である。
 - ② 個人差（高齢化による心身機能の低下）の問題。
 - ③ 人間には、基本的に自立して生活したいという欲求がある、———という認識。
 - ④ 時間的要素、高齢化の過程（人は徐々に高齢に達する）に対する工夫。又住宅が介護をいかにサポート（カバー）するか、という点。
- である。
- しかし、高齢者、身障者が生活する上ではこういった配慮が施された住宅だけでは不十分である。何らかのケアが必要なのである。これらは段階的には、情報サポートをするレベルから始まって、食事や排泄に対するケア、ホスピス等のようなターミナルケアに至るまでを包括するものだが、ハンディキャップ者の生活にとってケアが欠かせないことから、当然、ケアに対応した形での性能

を備えた住宅が不可欠となる。ケアのレベルで住宅を分類すると次の4段階になる。

- レベル1. 普通の住宅——特に高齢者を意識して設計されている訳ではないが、面積という観点からすると、建設省の基準では住宅面積に車椅子が使える面積が含まれていることが条件になっている。
- レベル2. 健康な高齢者が安全かつ快適に生活できる住宅。階段に手すりを設ける等、安全に対する配慮は当然必要である。
- レベル3. 健康な高齢者の中、歩行困難な人が生活できる住宅。車椅子等の使用が可能なレベルの住宅。
- レベル4. 機能低下がおきても、生活でき、かつ介護を配慮に入れたレベルの住宅。

上記は具体的に、どのような形で試みられているのだろうか。日本よりは緩慢であるが、それでも高齢化社会→高齢社会に移りつつある欧州先進諸国に目を向けてみよう。欧州では、今ある住宅ストックを改造して重度障害に耐える機能を加える、という考えが基本にある。イギリスでは、モビリティハウジングといい、まず①床に段差がなくフラットである、②通路の幅が90cm以上である——この2点が条件づけられている。尚、車椅子のサイズ(幅)は国際規格で90cmと決っているが、90cmの開口部をとることがかなり困難とみられる日本の住宅において、フラットであることを条件にしても、最低80cmをとる必要がある。

設計プランの段階でヨーロッパの住宅を考えると、基本的に床がフラットであり、寝室に隣接してトイレ・バスルームが付いている点等、従来プランが既にハンディキャップ者にとって便利であるという点がある。又、車椅子でアクセスできない建築は住宅とは認めない——という建築規定があるスウェーデンでは、普通の住宅が既にモビリティハウジングのレベルに達している訳で、これは普通の住宅に高齢者になってもある程度カバーできるレベルの基準が設けられているドイツに於いても同様といえる。

これに反し日本では、高齢者の住宅が、普通の住宅と分けて捉えられていることが依然多く、欧州の例をとるまでもなく、普通の住宅を考える際に、健康者のみを居住対象とするのではなく、ハンディキャップ者がそこで生活することが出来るかどうか——を考慮に入れること

が設計プランの段階から、欠けているといわざるをえない。例えば、それは、1階に寝室として使用できるスペースを確保したり、(マンションのプランニングでよく見られるが)寝室に使える部屋からバスルーム・トイレへ行くのにパブリックスペースを通過して行かなければならないような間取りを避けたりする配慮である。試みとしては、現在、当研究所では各施設・老人ホームに居住実験用として試作を提供しているが、各住宅メーカー(三井ホーム・セキスイハウス・殖産住宅etc.)でもモビリティハウスの技術開発が行われつつある。

一方インテリアの面に於いても部品メーカー等のアプローチにより、徐々にではあるが施設的なものを脱却して住宅にふさわしいインテリアとして開発されつつある。このふさわしいインテリアを考える上で、次に挙げるのがポイントとなる点である。

- ① 床をフラットする。
- ② 開口部は有効巾85～90cmとする。
- ③ 住宅にもエレベーターを設置する。
- ④ 車椅子を回転させられるスペース(最低直径140cm必要)を確保する。
- ⑤ 車椅子に座った姿勢で全ての機器に届くような機器の設計。

以上を踏まえて、上記をさらに詳しく解説したのが、当研究所でまとめた「高齢者向けの住宅内における日常事故を起こさないための住居安全チェックリスト案(配布プリント)」である。これによると、例えば日本人の習慣に適した浴槽を取り付け、かつそれを車椅子使用者が使用すると考えた場合等、住宅を建てる時点での配慮が重要であることが再認識されると思う。

又、住宅用手すり等、ハンディキャップ者用の部品が少ない、即ち選択肢の幅が狭いということは、最終的にハンディキャップ者にも健康な人同様、豊かな住まい方、インテリアを提供する上で改善されなければならない問題である。例えば一般者用・高齢者用とカタログを別にしないで、沢山の種類の中から高齢者が使用するのに適しているものを選ぶ等、ハンディキャップ者にもチョイスできる自由・権利を与えるという考え方こそ求められているものだといえよう。つまり、決めつけた住まい方をしない、という発想である。そして、こうして始めてハンディキャップ者のインテリアの真の向上が望めるのではないだろうか。

次に階段を例にとってみる。階段は傾斜角度を42度前後以下にし、さらに手すりをつけると事故率が著しく低下するのだが、現行の建築基準法（建築基準法は2階建が普及していない昭和27年に制定）では、42度前後以下にし、さらに手すりをつけると事故率が著しく低下するのだが、現行の建築基準法（建築基準法は2階建が普及していない昭和27年に制定）では、42度で制約されていないことを考えると、残念ながら基準法を準拠してもハンディキャップ者にとって安全性の高い住宅は設計できない、ということである。

最後に今困っている点のひとつとして、ハンディキャップ者の住宅に関して相談する場所がない、ということがあるが、今後の課題として挙げておきたいと思う。

尚、結論的にいえば今のレベルでは、日常安全を確保した住宅の確立が急務である——ということになる。

以上、後半はスライドをご覧にいれ、ドアサッシ・設備ユニット・防火性の問題等も述べ、イメージはつかんでいただけたと思うが、ハンディキャップ者の住居・インテリアの基本的な認識を深められ、インテリアの設計・計画ならびに開発に於いて、この講演が少しでもお役に立てれば幸いである。（関東：吉永 淳）

新名誉会員 松岡宇六氏の紹介

出身は熊本県天草郡上島松島町（天草5橋を渡って最南の島）で、家業が家具製造業であり、彼（失礼ながら以後宇六氏のこと）の生年は大正6年で六がつけられたと思う。彼の後に次々と弟妹が生まれ兄弟が多かったと聞いている。彼は子供の頃から家業の手伝いをして、小さい町であるためタンス・座卓等は勿論、仏壇等も作っていたようである。家族の人数が多いため何とかせねばと志し、単身京都に赴き、京都市東山本町の酢田宇一（漆工組合長）氏に弟子入りし漆工を学んだ（18歳から22歳）。

その後家族に仕送りするのに十分な送金をしたいと思い、上京して外務省法事務兵（軍法会議にける事績資料作成）養成のための東京研修所を志願、受験合格し、研修終了後済南（北京南370Km、青島西300Km、黄河流域都市）大日本帝国総領事館内検密領事室に赴任し津田午郎室長の部下として勤務した。

その頃1件は麻薬密売の大物逮捕、外1件で2度外務大臣表彰を受けている。この話は2人で対談している時に伺った話で、長くなるので省略するが、大した功績であり、その状況は非常に興味深いものである。

終戦後汽車に乗れないため馬車で済南から引き揚げる時には馬賊の襲撃を受け阿鼻叫喚の裡に自分も気絶し、後に救われ引き揚げて来た話も、その時の印象も機があれば絵に画いてみたいと言われている。

とにかく彼の目は鋭い、悪く言えば刑事の目の様な光を放つことがあるが、彼の目は幼い時から絵が好きで対象物の特色をつかむために、見すえる洞察の眼力であると思う。

復員後天草で一品製作を続けていてはいけない、量産の時代がくると思い昭和25年天草から大川に来て小物、座卓等から漆工を基調とした家具一般に進み、その後大きな成果を上げている。

自分でデザインし、大事な工程では製作にも従事し、家具・クラフト等の製品が製作され後記の様な賞を獲得されている。次代を受け継ぐ息子さんも九州芸工大工業設計科を卒業し、ヤング向けの家具デザインを行い、流通の場も広がっている。

宇六氏は名誉会員となられても九州支部の展示会等にはこれまで同様製作出品して頂けるものと期待しています。これまで色々とお難うございました。

主な受賞歴

- | | |
|-------------------------------|-----------|
| 全九州家具コンクール入賞 | 福岡県知事賞外3回 |
| 生活と工芸展入賞 | 朝日新聞社賞外3回 |
| 中小企業輸出振興展 | 中小企業長官賞2回 |
| ニューヨーク室内用品展 | 入賞 1回 |
| シカゴクラフト展 | 入賞 1回 |
| 全日本家具コンクール | 入賞 6回 |
| 賜天覧（献上） | 1回 |
| PAK展 | 入賞 4回 |
| ○アメリカ・カナダ向 S30～S35 コーヒーテーブル輸出 | |
| ○ホノルル市 HIC ホールに於て個展開催好評を受く | |
| ○アメリカ雑誌ハウスアンドガーデンに紹介掲載された。 | |

（九州：坂本康四）

「設立会員 岡村實氏逝く」

京都下鴨。冬の夜更けの道は寒さが身に沁みる。30年程前の正月、5,6人で新年会に招かれて、その岡村邸からの帰り道でのことである。遠く後の方から「オーイ、待てー」と声がする。

その声の主は、酒を呑み過ぎて別の部屋で横になっておられた筈の岡村さんだったのである。われわれは、休んでおられるのを起こしては気の毒と思って、あいさつをせずにおいとしましたところ、目を覚まして、おやさしい奥方をどなりつけ、「タクシーも用意せず、寒い道を歩いて帰ってもらうのは申し訳けない」ということで追いかけてこられたらしい。しかも、はだしで。義理固いと言うのか、人情味が厚いと言うのか、そのような岡村さんの、当時のシーンが、鮮明によみがえる。

更に、思いを廻らせば……。茶系統の背広。網の鞆。何んたって……。査図、査図、査図、注文したうどんは冷めてから食べる（実は猫舌）。連続出張。天童、東京、名古屋、富山、網野、広島、高松、鹿児島。工場検査中の設計変更。一旦納品後、引取やり替え。東海銀行本店、新住友ビル。チェイスマンハッタン銀行のスライド。

京都五山送り火の夜、何人かを自宅に招待され酒を汲み交し、そろそろ大文字を見ようと外へ出たら、火はすでに消えていたという話。祇園のキャバレー「フルニエ」の妖しい灯りの中でのうれしそうな顔。赤いドア。香。ペコニア。美帆。ビールの洗礼。カメラ。ステレオ。好色文学。好色版画。毎朝神仏に礼拝。日曜日は教会。もーろーびとー、こぞーりーてー、つかーえまーつれー。

仕事にきびしく、女性に甘くやさしく。しかし、植木未魚子さんや、平井美蔓さんの、くやし涙の顔を僕は知っている。こんな、インテリア部長岡村実さんは、もう……………。

日建設計（関西：伊吹 弘）

（岡村さんのあと、昭44から昭48まで、インテリア部長）

故 岡村 實氏

<略歴>

大正7年9月5日、朝鮮平壤府竹園町鉄道社宅4号にて岡村家四男として生まれる。父は鉄道土木技師 正雄、母はキクエ。

学歴：京城府龍山小学校、京城中学を経て昭和18年京都

高等工芸学校（現京都工芸繊維大学）図案科卒業

職歴：昭和18年 株式会社長谷部竹腰建築事務所（現株式会社日建設計の前身）入社

昭和48年 株式会社日建設計退社。その間、同大阪事務所インテリア部長、技師長を歴任。同年、株式会社インテリアソオラ設立、同代表取締役

昭和50年 株式会社インテリアソオラ退社

昭和51年 財団法人京都インテリア産業協会専務理事

昭和53年 同退任

昭和56年 宮崎木材工業株式会社渉外部長

昭和62年 同顧問

趣味：クラシック音楽鑑賞、オーディオ、写真、阪神タイガースファン

病歴：十代後半にて胸を患い、昭和20年代に3回にわたり長期療養し、完治する。昭和30年代から40年代後半は身体に異常なく、仕事に邁進する。昭和50年代初よりこの10年間は3～4年おきに入退院をくり返す。以前の手術が肺切除という物理的療法に頼らざるをえなかったものであるため、年齢とともに心肺機能のバランスを崩すことになった。昭和63年3月4日午前10時43分永眠。病名肺性心うっ血性心肥大。3月6日、日本キリスト教団京北教会にて葬儀。

<協会歴>

昭和33年8月より 樋口治、村尾栄、竹中長（故人）等と共に協会設立の準備を始める。（11月24日、日本室内設計家協会発足）

昭和34年 関西支部設立のため奔走。

5月27日 支部発足

協会理事に就任

昭和44年 社団法人日本インテリアデザイナー協会となり、52年まで16年間理事として、会務に尽くした。その間昭和42、43年は支部長を兼ね、関西支部の拡充、強化に努めた。

昭和53年より62年まで監事。（在任10年）

（関西：川崎 浩）

「岡村さんを偲んで」

「どうして素直に僕の言うことがきけないんだい？」
或は、「どうして、もう少し女らしく装うことを心掛けないんだい？」。

高度成長のきざしがみえだした頃、この道をえらんで、日建へ入社したときの、直属の先輩、岡村さんのセリフ。私へのこれらのセリフが、私を育てはじめてくれたといえましょう。キャリアウーマンの飛翔する当代とは違って、女子部員不用の声も高かったその当時ですが、仕事をめざす一つの人格として、陰に日なたに、あたたかく私を見守ってくれた岡村さんに、私は幾度これらのセリフを使わせたことでしょう。時として、礼儀作法についてのおこごとを頂き、又時として反面教師でもありました。今日のインテリアデザイナー協会が、室内設計家協会として発足した当時、その礎づくりに東奔西走の岡村さんが、事務所にもどってくると、非常に素直でない平井君が待ちかまえているといった、むかしの情景が、今も新鮮です。 (関東：平井美蔓)

松本政雄氏を偲んで

当協会中部地区より長年理事をされていた松本政雄氏が昨年11月21日東京通信病院にて心不全の為死去されました。享年83歳の生涯でした。思えば先生は東京高等工芸学校の図案科（現在の千葉大学工業意匠学科）を昭和3年に卒業され、すぐ東京建物KKへ奉職され、戦時中は満州の天津にて建築設計を手がけられていたと聞いて居りました。戦後、帰国してからは名古屋の愛知県工芸試験所（現在の愛知県工業技術センター）に入所され、工芸部長を最後に昭和35年に退官され、その後は松本建築設計事務所を開設し、そのかわら名古屋造形芸術短期大学のスペースデザイン科の主任教授として教育指導も行っていました。また工芸試験所在職中に中部デザイン協会設立と同時に常任理事、副会長を歴任し、加えて昭和46年4月当協会中部事業支部設立と同時に事業支部長、理事を歴任して文字通り、中部地区における建築、インテリア、陶磁器、プロダクトデザインなど手掛け巾の広いデザイナーとして活躍しておられました。それ迄欧米諸国にデザイン事情調査の為外遊、特にイタリアの貿易省から日本のインテリアデザイナーの招聘メンバーに加

わるなどされました。また昭和58年勲五等瑞宝賞を国から授けられました。丁度6～7年程前に前立腺の手術をされ、約1年間、御令嬢のおられる東京の病院で入院していましたが、その後元気になるれ、再度名古屋へ居を移し数年住まわれましたが、容態が思わしくなく、61年10月頃、長年住みなれた名古屋から御令嬢のいる東京に住まいを移しました。30数年名古屋に住まれ、大きな業績を残しながら、名古屋を離れるのを相当淋しく思われていた様子でした。丁度昨年9月に入院先へ見舞に伺った際病院にて、名古屋開催の世界デザイン博覧会の話、豊口克平先生との形而工房でのデザイン活動などの話題をして元気な様子が目に浮びます。その後急に容態が急変したことを耳に致しましたが遂に先11月末に永眠されました。また奥様も約1カ月後に後を追うように亡くなられた悲報に接し、人生のはかなさをつくづく痛感する次第です。謹んで哀悼の意を表します。

(中部：宇賀敏夫)

藤井湊一氏逝く

昨年末12月24日藤井氏が亡くなられました。思いおせば福岡室内デザイナーグループがあり（昭和25年頃）毎年玉屋・岩田屋・井筒屋等のデパートを会場として、そのグループの作品展が行われ、即売も致しましたので、半数位は売れていたと思います。 (次頁へ)

専門家のご紹介

下記の専門家がJID会員のためにその道の相談にのって下します。節税対策など、特にフリーランスの立場にある会員諸兄にも、日常の業務に関連して会計上の疑問などが生じることがあるかと思います。その際は時間の許す限り、電話問合せなども含め助言をお願いしてありますので、JID会員であることを告げて、お気軽にご相談下さるようおすすめいたします。

小野木日出勝事務所

税理士 小野木 日出勝

(東京税理士会会員)

〒182 東京都調布市入間町1-27

電話 03-309-6600

その頃彼は玉屋製作所に居り、私も彼の方に試作依頼をしたり、グループが何かと世話になったことがあります。併しながらその後（10年位前と思います）彼は病気になり自然に交際も御無沙汰のまま過ぎて居りましたので、死亡の通知も鳥取の白井氏（前会員）からの連絡で知った次第です。会員番号から言っても藤井・香月・坂本が151, 152, 153と続いていますからJ I Dも同様に入会したので、そのうち何人かで訪問、仏様をお参りしようと話して居ります。以上お報らせ迄。（九州：坂本康四）

会員の消息

◇ 岡嶋敏弘

2月1日をもちまして中央設備エンジニアリング株式会社を停年退職いたしました。

顧りみますに昭和21年9月26日に名古屋鉄道株式会社に入社以来名鉄ビルディング株式会社、株式会社名鉄百貨店、中央設備エンジニアリング株式会社と41年間に亘り継続勤務させていただきました。

この間、私なりに精一杯働いてまいりましたものの何分にも浅学非才の身にて、小過頻々大過亦幾度び、その都度皆様の暖かいご援助とお引立を賜り、お陰様にて今日の日を迎えることが出来ました。

茲に謹んで厚く御礼申し上げます。

◇ 笠松 栄

私ども、このたび下記の住所に転居いたしましたのでお知らせいたします。

相変わりませずよろしくお願いいたします。

まずは転居のお知らせかたがたごあいさつまで。

転居先 浦和市神田695 〒338

電話（0488）55-9529

また、旧聞に属しますが、先日は、ご多忙中にもかかわらず、ギャラリー世壺における「笠松栄ファニチャーデザイン展」（折り紙に魅せられた椅子）に、お越し下さいますて、誠にありがとうございました。

お蔭を持ちまして、無事、展示会期を終えることが出来ました。今後共、よろしく御指導、御鞭撻の程、お願い申し上げます。（関東）

◇ 加藤 帛子

皆様にはおかわりなくおすごしのこととお察し申し上げます。

去る2月、弊事務所を下記へ移転いたしましたのでお知らせ申し上げます。多摩川をこえて少し遠くなりましたが東名川崎インターからすぐの所です。これまでと同様よろしくお願い致します。（関東）

新住所 〒213

神奈川県川崎市宮前区犬蔵2-19-11

電話 044-977-7750

TAX 044-976-7102

有限会社カスタムアートアンドデザイナーズ

◇ 見野 健治

時下、益々ご隆昌の段、何よりとお慶び申し上げます。

さて、去る4月18日より4月23日まで「赤い煉瓦造りの水力発電所」をテーマいたしました「油絵展」を開催いたしました。会期中、沢山の方々にご来場いただき、ありがとうございました。内外多数の折柄、皆様のご健勝とご繁栄を念じ上げます。（関西）

◇ 奥野 由道

平素は何かとご高配賜り厚くお礼申し上げます。

さて、大変遅くなりましたが昨年12月5日、会長をお引受けしております岡山インテリアコーディネーター協会発足5周年を記念致しまして、「インテリアフォーラム 87岡山」を開催致しました。お蔭様をもちまして、347名の一般参加を得まして、好評裡に終わることができました。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。（関西）

◇ 山内 陸平

ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私儀 この度文部省の在外研究員として、米国イリノイ工科大学を中心として、本年中米国での研究生活を送ることになりました。

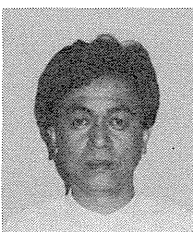
20数年ぶりの米国での生活、初心にかえて今後の教育・研究に何かをと考えておりますので何卒今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

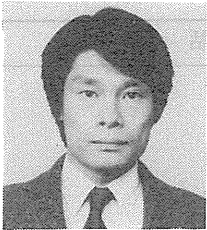
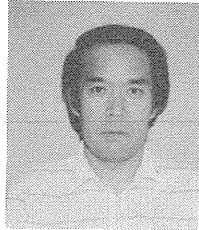
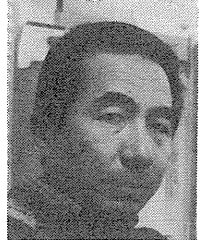
まずは、略儀ながら書中を以ってご挨拶申し上げます。

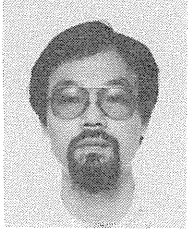
（関西）

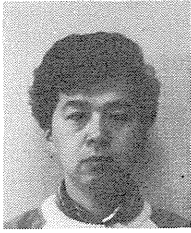
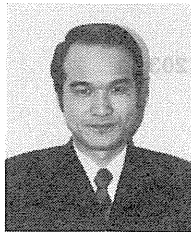
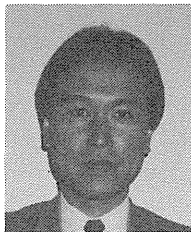
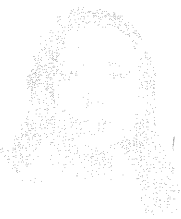
●新入会員の紹介

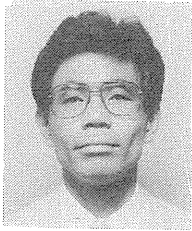
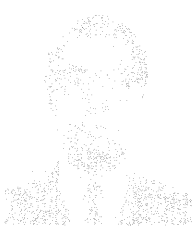
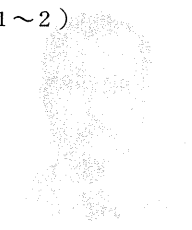
(正 会 員)

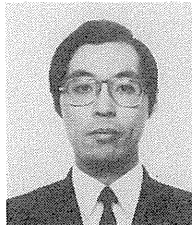
会員名及号番		住 所 及 電 話
みや じ じゆん いち 宮 地 純 一 (会員番号 671) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	ライブ デザイン プロジェクト 大阪市北区同心2-5-16 岡本ビル 207 〒530 TEL 06-354-2726 同 上 三輪正弘 ・ 山品 元
ひ うら やす ひろ 樋 浦 康 裕 (会員番号 672) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)西武百貨店池袋店スタジオ カーサ部設計室 東京都豊島区南池袋1-28-1 〒171 TEL 03-981-0111 (内線2525～6) 東京都練馬区東大泉5-38-16 メゾネット州101 〒177 TEL 03-978-7442 西沢圭三 ・ 片柳和男
さか やま しょう いち 坂 山 正 一 (会員番号 673) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)アクタス コントラクト事業部 東京都渋谷区渋谷2-13 日本風土ビル7階 〒150 TEL 03-499-4001 東京都目黒区上目黒5-28-11-102 〒153 TEL 03-793-7672 山品 元 ・ 岸田 勝
やま もと 山 本 ヒカル (会員番号 674) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(企) 東京ベース 東京都渋谷区代々木2-26-1 第一桑野ビル5C 〒151 TEL 03-374-4869 東京都大田区東矢口1-7-20 〒146 TEL 03-736-4801 中村圭介 ・ 山品 元

あお き あき お 青 木 昭 夫 (会員番号 675) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)イトーキ 東京都中央区銀座3-5-8 〒104 TEL 03-566-5499 横浜市鶴見区向井町2-67-6 コーポウイステリア301 〒230 TEL 03-504-9008 合 田 正 甫 ・ 山 品 元
え び す ま さ み 恵比寿 正 躬 (会員番号 676) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)イトーキ 東京都渋谷区渋谷2-15-1 〒150 TEL 03-499-2921 千葉県八千代市米本団地3-17-203 〒276 TEL 0474-88-4341 合 田 正 甫 ・ 山 品 元
しも かわ ひろ みち 下 川 裕 道 (会員番号 677) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)イトーキ 東京都渋谷区渋谷2-15-1 〒150 TEL 03-499-2921 神奈川県川崎市中原区井田中ノ町288 〒211 TEL 044-751-8915 合 田 正 甫 ・ 山 品 元
ほん ま じゅん いち 本 間 純 一 (会員番号 678) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	純企画設計室 名古屋市守山区小幡花ノ木87-2 〒463 TEL 052-794-1304 同上 宇 賀 敏 夫 ・ 大 橋 義 博
いわ さき まりこ 岩 崎 真理子 (会員番号 679) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)マリーマリーフォー 東京都渋谷区恵比寿南2-13-12 〒150 TEL 03-719-9373 東京都狛江市駒井町3-40-6 〒201 TEL 03-480-8724 岡 部 史 子 ・ 吉 良 ヒロノブ

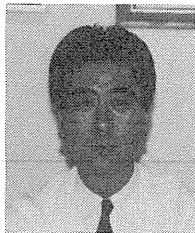
す だ さわこ 須 田 佐和子 (会員番号 680) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	三井ホームインテリア(株)専属 東京都新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビル 18 F 〒163 TEL 03-342-4932 千葉県朝日ヶ丘町 3201-1 コープ野村 1-202 〒281 TEL 0472-74-1432 岡 部 史 子 ・ 吉 良 ヒロノブ
はやし ゆきお 林 夕起夫 (会員番号 681) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	林 デザイン事務所 東京都渋谷区代々木 5-11-5 代々木コンビ 203 〒151 TEL 03-465-7869 東京都渋谷区初台 2-25-2 三佳マンション 203 〒151 TEL 03-379-8294 矢 吹 宏 ・ 三 宅 正 郎
じゅうもんじ よう いち 十文字 洋 一 (会員番号 682) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)ドーム建築設計事務所 東京都世田谷区玉川 1-2-13 松映 201号館 305 〒158 TEL 03-707-3312 横浜市緑区藤が丘 1-15-3 〒227 TEL 045-973-8007 吉 良 ヒロノブ ・ 阪 井 良 種
さか い たか し 酒 井 隆 嗣 (会員番号 683) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)サロン ド サカイ 京都市北区上賀茂桜井町 55 〒603 TEL 075-722-0077 京都市北区上賀茂高縄町 31-2 〒603 TEL 075-791-9682 山 岸 征 史 ・ 村 山 勝 彦
こし かわ ひさ こ 越 川 久 子 (会員番号 684) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)テキスタイル 飯田 東京都渋谷区元代々木町 1-1 〒151 TEL 03-465-5001 東京都大田区久が原 4-40-4 〒146 TEL 03-751-7868 三 輪 正 弘 ・ 渡 辺 優

とお やま たかし 遠 山 崇 (会員番号 685) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	ティーズ <T's> デザイン事務所 東京都多摩市永山 2-1-1 永山ハイツ 602 〒206 TEL 0423-37-1386 同上 〒206 TEL 0423-74-4466 田島 憲悟 ・ 伊藤 公一 
なが た よし あき 永 田 義 彰 (会員番号 686) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株) ニ ッ ク 福岡市中央区天神 1-11-17 〒810 TEL 092-721-8151 福岡市中央区梅光園 2-21-5 〒810 TEL 092-752-1876 溝口 新 ・ 坂本 康四 
しば た りゅう すけ 柴 田 龍 介 (会員番号 687) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株) リュウ デザインプロジェクト 福岡市中央区渡辺通 2-7-20 〒810 TEL 092-713-6621 福岡市中央区赤坂 3-12-16 〒810 TEL 092-714-0180 溝口 新 ・ 坂本 康四 
す どう れい こ 須 藤 玲 子 (会員番号 688) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株) 布 東京都港区六本木 5-17-1 アクシス B1 〒106 TEL 03-582-7997 東京都練馬区東大泉 6-44-30 〒177 TEL 03-925-2046 飯田 公久 ・ 窪田 緑 
おお こし たか こ 大 越 孝 子 (会員番号 689) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	三井ホームインテリア(株) 東京都新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビル 17F 〒163 TEL 03-346-4431 千葉県市川市真間 1-3-14 〒272 TEL 0473-22-7129 山本 棟子 ・ 長岡 貞夫 

あお き たけし 青 木 猛 (会員番号 690) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	エイム デザイン研究所 東京都渋谷区桜丘町 27-1 正光ビル 402 〒150 TEL 03-496-6668 東京都府中市白糸台 5-31-1-4-407 〒183 TEL 0423-65-7707 今 崎 務 ・ 藤 川 征 輝 
いま い ひさ し 今 井 壽 志 (会員番号 691) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株) ザ・デザインスタジオ 東京都千代田区神田神保町 1-3 富山房ビル 〒101 TEL 03-293-5810 東京都新宿区榎町 71-1-603 〒163 TEL 03-266-0968 矢 吹 宏 ・ 三 宅 正 郎 
や そ つね みつ 八 十 常 充 (会員番号 692) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	松下電器産業(株) ナショナル HA & 住まいの設備センター 大阪市東区城見 2-1-61 ナショナルタワー 3階 〒540 TEL 06-949-2221 (内 3291~2) 兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町 14-6-504 〒659 TEL 0797-32-5431 山 内 陸 平 ・ 栢 原 秀 榮 
ふな ばし ち え 舟 橋 千 枝 (会員番号 693) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	アトリエ 彩 東京都目黒区目黒 4-21-17 〒153 TEL 03-715-9543 同 上 長 岡 貞 夫 ・ 山 本 棟 子 
おぎ の のり と 荻 野 宣 子 (会員番号 694) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	noifer 東京都渋谷区神宮前 2-33-5-603 〒150 TEL 03-403-5100 東京都杉並区井草 1-25-3 〒167 TEL 03-396-5648 長 岡 貞 夫 ・ 後 藤 宣 夫 

いわもと かつ ゆき 岩 本 勝 之 (会員番号 695) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	イワモト デザイン事務所 東京都渋谷区千駄谷 1-11-15-502 〒151 TEL 03-470-0124 東京都府中市住吉町 2-30-73-514 〒183 TEL 0423-68-4113 杉 本 真二郎 ・ 中 島 研 一
あしだ かず お 芦 田 和 男 (会員番号 696) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株) 三 越 本 店 東京都中央区日本橋宝町 1-4-1 〒103 TEL 03-241-3311 東京都中央区月島 2-9-11 〒104 TEL 03-532-4555 中 村 圭 介 ・ 山 下 博 之
もり もと つとむ 森 本 勉 (会員番号 697) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	森 本 企 画 東京都中央区八丁堀 4-12-20 第 1 S S ビル 〒104 TEL 03-551-3039 埼玉県浦和市元町 3-32-28 〒336 TEL 0488-86-2163 渡 辺 優 ・ 長 岡 貞 夫
しかた こう いち 四 方 功 一 (会員番号 698) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	成安女子短期大学 京都府長岡京市調子 1 丁目 〒617 TEL 075-953-1111 (内 330) 京都市左京区大原井出町 57 〒601-12 TEL 075-744-2460 安 永 一 典 ・ 浅 田 弘 之

(準 会 員)

会 員 名 及 番 号		住 所 及 電 話
たん じ あ こ 丹 治 亜 子 (会 員 番 号 B-156) 	< 勤 務 先 ・ 事 務 所 > < 自 宅 > < 推 薦 者 >	小堀住研 (株) 中央研究所 東京都港区南麻布 3-19-23 オーク南麻布ビル 7 F 〒106 TEL 03-473-6081 東京都江戸川区西葛西 2-15-20-407 〒134 TEL 03-688-3875 諸 富 幸 成
おこのぎ あき ひこ 小此木 秋 彦 (会 員 番 号 B-157) 	< 勤 務 先 ・ 事 務 所 > < 自 宅 >	(株) インテリア・アート・トーコー 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル BF 〒163 TEL 03-344-1050 埼玉県春日部市小淵 493-1-1-201 〒344 TEL 0487-54-1145 佐々木 浩
にし むら けい こ 西 村 佳 子 (会 員 番 号 B-158) 	< 勤 務 先 ・ 事 務 所 > < 自 宅 > < 推 薦 者 >	(株) インテリア・アート・トーコー 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル BF 〒163 TEL 03-344-1050 神奈川県相模原市相南 4-23-27 コーポ相南 53 〒228 TEL 0427-47-2112 佐々木 浩
さ さ き たか こ 佐々木 孝 子 (会 員 番 号 B-159) 	< 勤 務 先 ・ 事 務 所 > < 自 宅 > < 推 薦 者 >	(株) インテリア・アート・トーコー 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル BF 〒163 TEL 03-344-1050 東京都杉並区阿佐谷北 1-39-29 〒166 TEL 03-338-5171 佐々木 浩

あお やま かず お 青 山 一 男 (会 員 番 号 B-160) 	< 勤 務 先 ・ 事 務 所 > < 自 宅 > < 推 薦 者 >	(株) インテリア・アート・トーコー 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル B F 〒163 TEL 03-344-1050 神奈川県鎌倉市津 602-77 〒248 TEL 0467-32-5052 佐々木 浩
---	---	--

会 員 名		住 所 , 電 話 及 び 担 当 者
カルテル・ジャパン (株)	住 所 担 当 者 紹 介 者	東京都港区六本木 5-18-18 同和ビル 4 F 〒106 TEL 03-582-1469 FAX 03-582-0974 営業部長 ティエリ・コーヘン 山 品 元

賛助会員ニュース

◇ 株式会社 リバコトレーディング

去る 1 月 16 日開催の弊社臨時株主総会並びに取締役会に於きまして、株式会社リバコの販売を強化する為、販売部門を分離独立、株式会社リバコトレーディングとして発足することと致しました。

尚、株式会社リバコは企画開発部門を担当致し、名称も株式会社リバコプランニングと改め専念致す所存でございます。

つきましては、社員一同一層社業の発展に努力致す所存でございますので、何卒倍旧の御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長 小 川 成 信

◇ 株式会社 トミタ

平素は、格別のお引立てを賜わり厚く御礼申し上げます。

株式会社トミタ（代表取締役社長富田正一）では、63年 3 月より新作輸入壁紙シリーズ「ドモテックス'89」、

「オルビット」、「ヨーロッパ'89」、「アメリカ'90」、「キャラット」の 5 種類を発表致しました。

この件に関するお問合せ先

株式会社トミタ

東京都中央区京橋 2-3-16

電話 (03) 273-7551

担当 営業部 富田順三

◇ 株式会社 高島屋

平素は格別のお引立てを賜わり、誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

さてこの度 当事業本部関西装飾部及び大阪設計室の事務所を下記の通り移転いたしました。

何卒ご高承の上 今後とも一層のお引立てを賜わりますようお願い申し上げます。

新住所 〒556

大阪市浪速区日本橋 3 丁目 5 番 25 号

高島屋東別館 2 階

関西装飾部 電話 (06) 632-3190 (代表)

大阪設計室 電話 (06) 632-3091 (代表)

FAX (06) 632-3212

◇ トーソー 株式会社

フレキシブルカーテンレール『リフレ』が、このたび日本発明振興協会と日刊工業新聞社共催の第13回発明大賞の中で「発明大賞福田特別賞」を受賞いたしました。

フレキシブルカーテンレール「リフレ」は、出窓や特殊窓が急増している中で出窓専用のカーテンレールとして開発されたもので、やわらかな特殊樹脂製レールで自在に曲がるので、出窓のカーブに合わせて簡単に取り付けられ、専用工具を一切使用せず、台形出窓やベイウインドウ、ボウウインドウなど特殊な形状の窓にも対応できる、まさに消費者ニーズにあったカーテンレールといえます。

本件に関するお問い合わせ

トーソー株式会社

営業本部 広報課 木次、市川

電話 03-552-7451

◇ 株式会社 大丸装工事業部

石村 昌男

永年に渉り、賛助会社の代表として、会員の皆様方には大変お世話になりましたが、今般、社内の人事異動により新しく平松有恒が就任致し、私は近く退社致すことになりました。

顧みますに、戦争直後の昭和21年大丸に入社以来、木工廠（現在の大丸木工）での駐留軍向、特需家具を皮切りに、大阪・心斎橋店の家具売場、昭和34年以降は装工事業部と42年間の永きに渉りインテリア関連一本で過して参りました。

その間、新宮殿迎賓館、YS-11、アクアポリスの内装等の国家的事業を始め、中国向けの水上レストラン等数多くのメモリアルなプロジェクトに、幸いにもタッチすることが出来大変有難く存じております。

これも、多くの会員の皆様方の御指導のお蔭と厚く御礼申し上げる次第です。

何卒、会員の諸兄には、後任の平松君に私以上の御高誼、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

本来ならば、一々拝眉の上御挨拶申し上げるべきところ、とりあえず誌上をお借りして御礼申し上げる次第です。最後に会員皆様方の御健勝と会の御発展を心より祈念申し上げます。

関連団体の動き

◆ (株) 日本ジュウリーデザイナー協会 (略称 JJD)

63.3.30付で、JJDの社団法人化が実現した。所管はJIDと同様、通産省検査デザイン行政室。これを祝して、去る4月7日、東京・渋谷東武ホテルで内外の関係者多数を招き設立披露祝賀会を開催した。JIDからも川上副理事長他が出席し、お祝いを述べた。因みにJJDは会員数252、本部 東京。理事長 金子俊二氏。

◆ 日本インテリアファブリックス協会

同会は、昭和54年12月に日本インテリアファブリックス懇話会として設立以来、9年目を迎え事業内容も一段と充実してきたのを機会に、この4月1日より、標記のように会名改訂を行った。昭和57年発足の、「JAPAN TEX」の今日の隆盛も同慶に堪えない。ますますのご発展を期待したい。

新会名 日本インテリアファブリックス協会

会長 宮川武男 氏)

住所 〒105 東京都港区浜松町2丁目3番23号

フクダビル6階

電話 03-433-4521

FAX 03-433-7860

事務局短信

- ① 緑風さわやかな季節になりました。事務局の隣地は現在広々とした空地で、やがて外苑前ビル（仮称）の工事が始まるようです。
- ② 言い訳にはなりませんが、期末、期初の事務繁忙のためJID NEWSの発行が大巾に遅れました。本当に申しわけありません。（1・2・3は欠号です）
- ③ 新入会員の方々のご紹介をまとめて一挙、収録いたしました。ニューパワーを期待しております。
- ④ 5月24日の通常総会に向けて、準備が進んでおります。総会資料は5月初旬に発送になります。ご多忙のことと思いますが、総会当日は積極的にご出席下さい。
- ⑤ 例年のように、「文芸美術国民健康保険」案内を載

せました。保険料は、ここ5年据置きです。日本グラフィックデザイナー協会のように、多数会員が加入しているところもあります。ご存知のように、この健保は、JID会員でなければ(個人的には)加入できない団体健保です。一般の国保で済ませている方は、一度ご検討の価値はあると思います。

資料は事務局まで。

- ⑥ 今春に入って鬼籍に入られた物故会員に、生前親交の深かった方々から寄稿がありました。少々ボリュームがありましたが、全文載せさせていただきました。

⑦ 昭和62年度年会費未納の方へ

一昨年より監督官庁の助言もあり「公益法人会計基準」の完全実施の線で、事務改善を進めています。未納者の抽出もより明確に行えるようになり、総会をはじ

め理事会等への報告をスピーディに処理しています。当該会員各位の納入へのご理解とご協力をお願いいたします。

- ⑧ 「事務局アンケート」実施には、積極的なご回答、ご協力をいただき、ありがとうございました。事務局では、今後の大切な資料として活かすべく、現在集計中です。全会員よりのご回答を目指していますので、まだ、未回答の方、ぜひご回送下さい。

- ⑨ 事務局業務担当の伊藤公子さんが4月初旬入院、現在も通院中のため、事務局事務が若干遅れ、ご迷惑をお掛けしている面があります。現在、遅れをとり戻すよう最大限の努力をしておりますので、暫時ご理解の程お願い申し上げます。

(事務局)

JID賛助会員ディレクトリー (抜粋)

中央設備エンジニアリング (株) 愛知県名古屋市名区名駅1-2-4 〒450 (名鉄バスターミナルビル10F) (052) 582-8201 岡嶋敏弘(インテリア部部长)	東京デザイナー学院名古屋校 事務局: 愛知県名古屋市中区栄4-16-23 〒460 (052) 262-0766 富田光政(事務長)
(株) 天 童 木 工 東京支店: 東京都港区浜松町1-19-2 〒105 (03) 432-0401 桜井久喜(技術部商品開発課課長)	東京ナイキ工業(株) 東京都千代田区岩本町1-10-6 〒101 T.M.Mビル8F (03) 864-7511 田畑恵義(企画統括室室長)
東京シンコール(株) 東京都荒川区東日暮里4-12-1 〒116 (03) 802-3211 中根 修(企画部デザイン室室長)	東 陶 機 器 (株) 東京都港区虎ノ門1-1-28 〒107 (03) 402-4911 小林一郎(東京本部デザイン第三課課長)

1988/4・5

頒価 300 円 (送料共)

昭和63年5月16日発行 (日本インテリアデザイナー協会月報 1988 年通巻 149 号)

発行・社団法人 日本インテリアデザイナー協会

印刷所・(社) コロニー印刷

振 替・東京 8-76389